企業名：　　小野薬品工業株式会社

レポート名：　　コーポレートレポート 2021

1.　この会社が目指す姿が理解できるか

小野薬品の目指す姿を同社のコーポレートレポートから理解することは容易である。なぜなら、本レポートの冒頭部分に、「熱き挑戦者たちであれ」というスローガンから始まる小野薬品の目指す姿が記述されている部分があるからだ。そこからは同社の先進的な医薬品によって、患者とその家族、また医療担当者とともに病と闘うという小野薬品の姿勢が分かる。また、「ビジョン」というパートからも、同社が中堅規模ながらも 2020 年度に国内トップの承認数を獲得した研究開発の更なる強化や、海外展開などの事業領域の拡大によって、持続的に成長し目指す姿に近づこうという気概が感じられる。統合報告書から会社の目指す姿を理解するという点においては、小野薬品のコーポレートレポートにはそれが明快に記述されていたため、冗長に記述されていた同社の競合である武田製薬や中外製薬の統合報告書に勝っているように感じられた。

2.　この会社の競争優位性が理解できるか

小野薬品の競争優位性を同社のコーポレートレポートから理解することは困難である。なぜなら、これは武田製薬や中外製薬も同様であるが、レポートの中で競争優位性にスポットライトを当てた部分が存在せず、成長戦略の中に競争優位性となりうる要素が書かれているにとどまっているからである。成長戦略に関する記述のうちから考えれば、癌に対する治療薬であるオプジーボやオープンイノベーションが小野薬品の競争優位性を保つ要素であると言えるが、このレポートを読む投資家や学生にとっては成長戦略とは別に競争優位性に関する項があった方が理解しやすいだろうと考える。

3.　その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

小野薬品の競争優位性の持続性について、同社のコーポレートレポートから理解することは困難である。その理由は 2 で述べた通り、小野薬品の競争優位性についてまとめた部分が存在しないからである。また、私は、2 で挙げた小野薬品の競争優位性となりうるオプジーボとオープンイノベーションという 2 つの要素に持続性はあまりないのではないかと考える。オプジーボについては 2031 年には特許が切れてしまう上、オープンイノベーションは、中外製薬の統合報告書によると同社も導入している枠組みであり今後多くの会社が導入するのではないかと考えられるからである。

4.　この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

小野薬品のコーポレートレポートから、同社で私の人的資産の価値の向上は達成できると考える。なぜなら、小野薬品は多国籍企業への成長に向けて海外自販に注力しており、これに携わることができれば、グローバル化が進む今日において、それに対応可能な人材となることが出来るからである。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

小野薬品のコーポレートレポートは、ESG 戦略に関するなど内容が豊富である一方で、小野薬品の競争優位性が分かるような部分、またレポートのなかで強調したい内容が分かりにくい。競合他社については、武田製薬は自社の強みに焦点を当てた項が統合報告書の中に存在せず、中外製薬は小野薬品と同様に競争優位性が書かれている部分が分かりにくかった。これらのことから他社にも共通することではあるが、2021 年度のコーポレートレポートでは、小野薬品のステークホルダーとなりうる投資家や、将来世代、すなわち同社に入社して今後を担うであろう学生たちに、このコーポレートレポートを通じて十分なアピールができるような内容にはなっていないのではないかと感じられた。よって、小野薬品のコーポレートレポートには、同社の強みが分かるような内容がより多く含まれるべきであると考える。また、分量が多いため、図や表を増やすことで、より読者が読み進めやすくなると考える。